

平成30年度野生鳥獣による農作物被害調査結果について

1 調査方法

本調査は、「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律（平成19年法律第134号）」に基づき、国の調査依頼を受けて実施。

各市町村が、被害を受けた作物の被害額や鳥獣の種類等について、農業共済組合への照会や被害農家からの報告、JA等の関係団体への聞き取り等により調査した結果を、県が取りまとめて国に報告するもの。

2 調査結果の概要

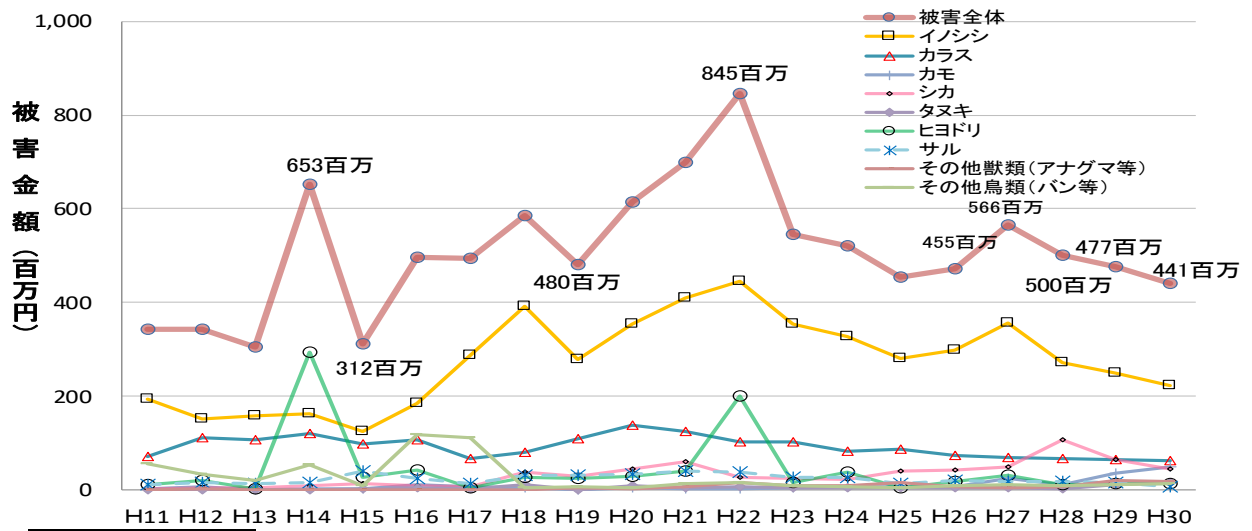
- 本県の平成30年度における野生鳥獣による農作物被害額は、前年度より**3千6百万円減少（前年度比▲8%）**し、**4億4千1百万円**となっている。平成23年度以降、被害額は減少傾向にあるが、依然高い水準で推移している。
- 鳥獣種別被害額では、イノシシによる被害が全体の50%を占めており、次いでカラスが14%、カモが11%となっている。前年度より、**イノシシ、カラス、シカの被害額は減少**したが、**カモ、タヌキは増加**している。
- 作物別被害額では、野菜が33%で最も高く、次いで果樹が29%、米が22%となっている。
- 「えづけSTOP!」を基本とした集落ぐるみでの取り組みの拡大や侵入防止柵の設置、捕獲により、イノシシやシカの被害は減少傾向にある。一方で、取り組みが難しいカモ等の鳥類やタヌキ等中型獣類による被害が一部の地域で大きくなっている。
- 地域別の被害は、**上益城地域（前年度比▲51%）、鹿本地域（▲38%）、阿蘇地域（▲31%）、天草地域（▲16%）**等で減少し、**八代地域（23%）、球磨地域（19%）**等で増加した。これを鳥獣種別にみると、上益城・天草地域ではイノシシ、鹿本地域ではその他獣類（アナグマ等）、阿蘇地域ではシカによる被害額が減少している。一方で、八代地域ではカモ、球磨地域ではイノシシによる被害額が増加している。
- 全国の野生鳥獣による農作物被害額は、158億円で前年度比4%減少、九州では22億円で5%減少となった。本県の減少率は7.6%で、全国平均・九州平均よりも減少率が大きくなっている。

平成30年度農作物被害額

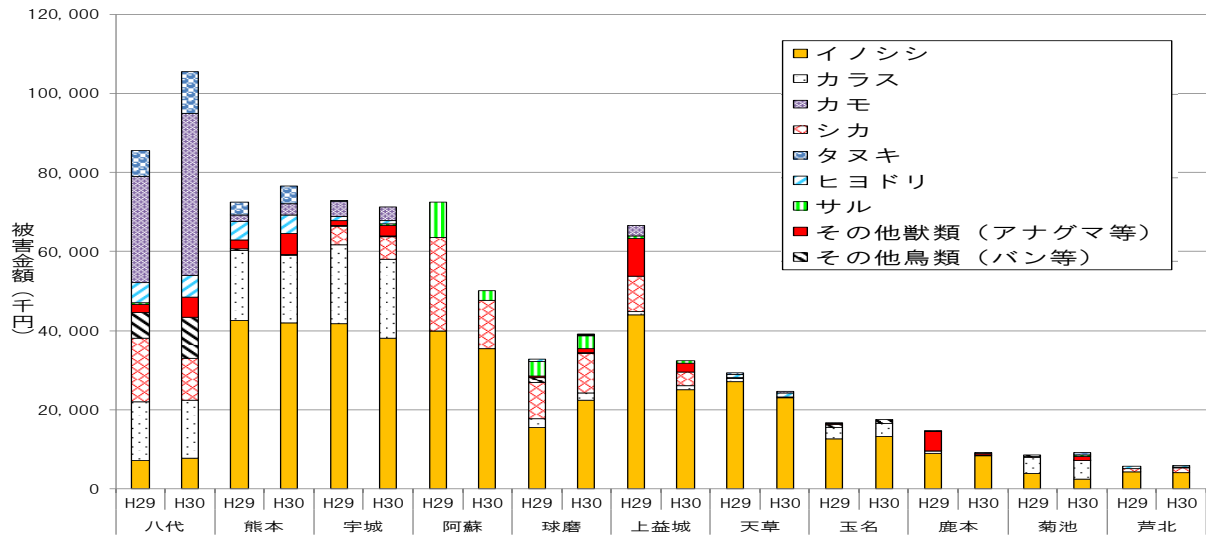
青文字：減少、赤文字：増加

| 項目 | 被害額 | 前年度からの増減額 | |
|--------------|-----------|-----------|------------|
| | | 対前年度増減率 | |
| 全 体 | 4億4,096万円 | ▲8% | 約 3千6百万円減少 |
| イノシシ | 2億2,176万円 | ▲10% | 約 2千6百万円減少 |
| カラス | 6,287万円 | ▲2% | 約 1.2百万円減少 |
| カモ | 4,757万円 | 35% | 約 1千2百万円増加 |
| シカ | 4,341万円 | ▲32% | 約 2千0百万円減少 |
| タヌキ | 1,572万円 | 56% | 約 5.6百万円増加 |
| ヒヨドリ | 1,262万円 | ▲2% | 約 0.3百万円減少 |
| サル | 711万円 | ▲48% | 約 6.6百万円減少 |
| その他獣類（アナグマ等） | 1,760万円 | ▲12% | 約 2.3百万円減少 |
| その他鳥類（バン等） | 1,230万円 | 25% | 約 2.5百万円増加 |

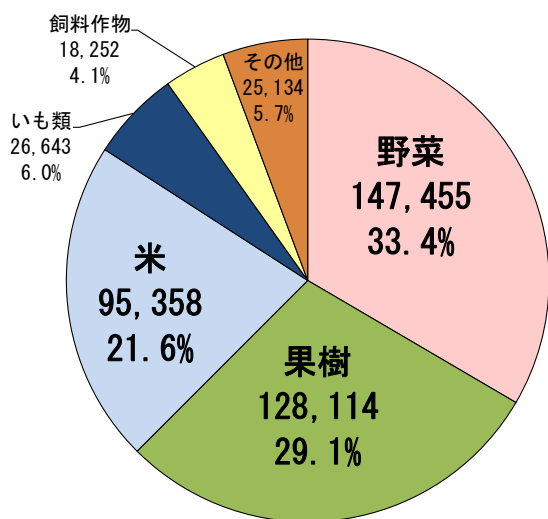
被害額の推移



地域別の被害額



作物別の被害額 (千円)



鳥獣種別の被害額 (千円)

